

巻 頭 言

富山県高等学校教育研究会
情報部会長 宮 岸 毅

部会員の皆さま方には、日頃から本会研究活動にご理解とご協力をいただき、心から感謝申し上げます。また、元来の教科に加えて情報科の授業を受け持つ方や、ネットワーク管理の業務を担当される方も多いことと思います。日々の教育指導へのご尽力に改めて敬意を表します。

今年度を振り返れば、理事や事務局など役員の方々のスマートな企画運営により充実した事業活動になりました。6月の総会では、本会の目的である「富山県高等学校教育の情報教育に関する研究を通して、情報教育の発展に寄与する(会則2条)」の中で、2箇所ある「情報教育」の文言を「情報科教育」に改めました。これは、本会が教科部会であり、教科としての教育研究に資することを明確にし、教科情報だけが情報教育を担うという限定的な捉え方にならないよう留意したことによるものです。

11月の研究発表大会では、島教諭[呉羽高校]が「情報の授業の取り組みについて」、上田教諭[高岡西高校]が「情報の伝達-体験してみよう-」のテーマにより、それぞれが、言語活動の充実や情報モラル、実体験の重視やアクティブラーニングなどの観点から時宜を得た実践研究をご発表いただきました。また、辰己丈夫氏[放送大学准教授]による講演「あなたにとって情報科は入試科目ですか？」では、情報入試研究会における活動内容や、大学入試への情報導入という視点から興味深い話が聴けました。

さて遡れば、昭和60年代の臨教審(臨時教育審議会)において、「読み、書き、算盤」と並ぶ学校教育の基礎基本とされた「情報活用能力」の概念は、情報科教育の根幹をなす能力として位置付けられてきました。平成元年の学習指導要領改訂においては、数学科や理科、家庭科等におけるコンピュータ関連の中での能力育成にとどまったものの、平成11年改訂では、情報活用能力を「情報活用の実践力」、「情報の科学的理解」、「情報社会に参画する態度」の3観点から明確にして、普通教科「情報」(科目は、情報A、情報B、情報C)が新設されました。

現行の平成21年改訂では、「社会と情報」、「情報の科学」のいずれか1科目を必修とし、情報社会との関わりや情報モラルを重視しながら、情報活用能力の確実な習得を目指しています。今後は、このような経緯や成果を踏まえ、平成30年代の次期改訂に向けた動きが活発になるものと思っています。本会では、これからも社会の動向や教育改革の方向にアンテナを高くしながら、実践研究活動の推進と情報活用能力のレベルアップに努め、情報科教育の発展に寄与するという役割を担っていくことが大切だと考えています。

終わりになりますが、富山県教育委員会県立学校課、富山県総合教育センター科学情報部には、温かいご指導ご支援を賜っておりますことに感謝申し上げます。今後の本会の一層の発展を祈念してご挨拶といたします。